

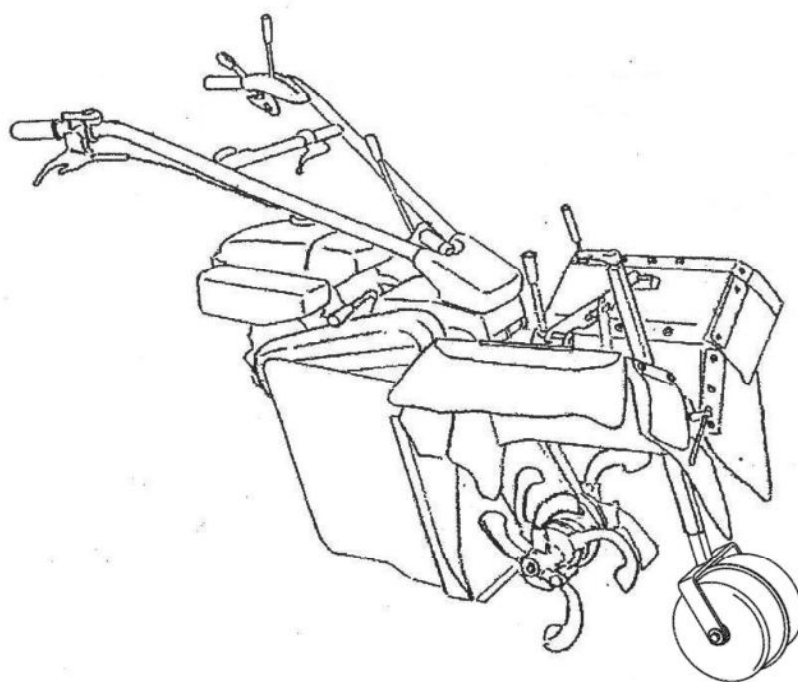
ヘルパー

鎮圧式整形管理機

取扱説明書

K802P

うねパンチャー



当製品を安全に、正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。

ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買い上げの製品が秀れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためにこの冊子をご活用ください。

また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

 **危険**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。

 **警告**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。

 **注意**：注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを示します。

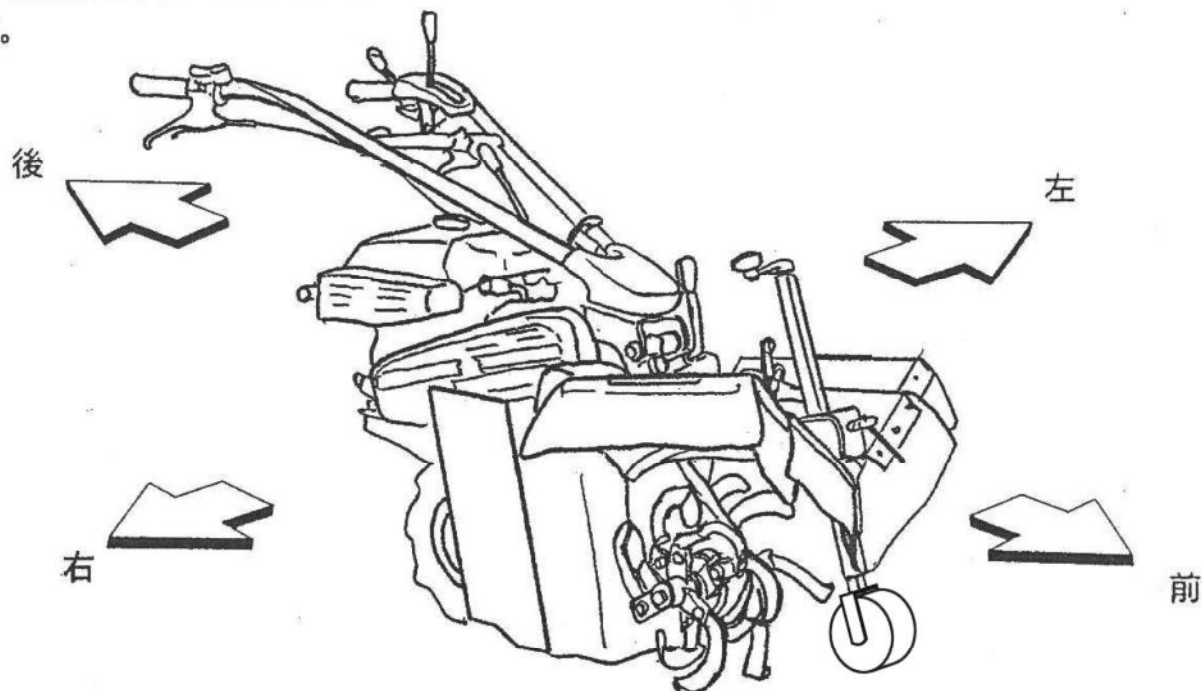
目次

安全に作業するために	1
警告ラベルとその取扱い	7
サービスと保証について	9
各部の名称と取扱い	10
上手な運転のしかた	15
1. 運転のしかた	15
2. エンジンの始動	17
3. 停止のしかた	18
4. 発進のしかた	18
5. 土揚げ作業	19
6. 作業中の注意点	20
7. 爪軸と耕うん爪の取付け方	21
8. 爪の取付け	22
9. 方向転換時のハンドル調節	23
こんなときどうする	24
1. エンジンオイルの交換	24
2. エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換	24
3. フィルターポットとフィルターエレメントの清掃と交換	24
4. 点火プラグの調節と清掃	25
5. ミッションオイルの交換	25
6. Vベルトの張りの調節	25
7. ロータリケーブルの調節	26
8. 耕うん軸へのグリスの塗布	26
9. カバーの調節	27
10. 長期格納のしかた	28
仕様・諸元	29

安全に作業するために

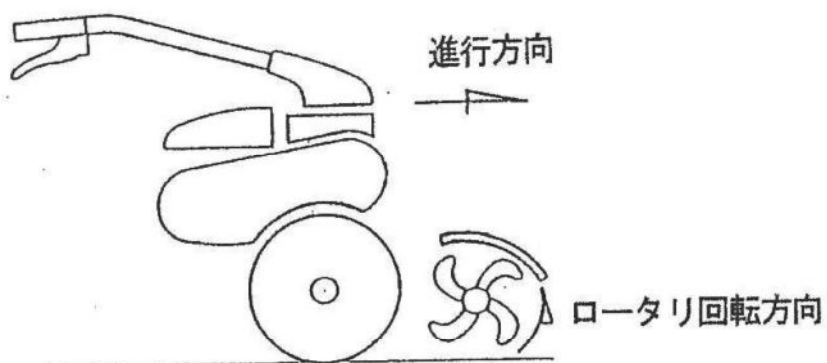
本機をご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。

この「取扱説明書」で使用している〈前後、左右〉などの《用語》は図示のように決めています。



ハンドル位置と進行方向及びロータリ回転方向

この機械は下図の形での作業を行ってください。





安全に作業するために

管理機 の 取扱い は 正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で能率的な作業を行うために、次のことをお守りください。



警告

こんなときは運転しない

1. 体の調子の悪いとき
2. 酒を飲んだとき
3. 妊娠しているとき
4. 16才未満の人

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



警告

作業に適した服装

1. はち巻・首巻・腰タオルは厳禁
2. だぶつきのない服装
3. ヘルメットなどの防護具の着用

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

他人に機械を貸すときは取扱い方法を説明する。

取扱い方法を説明し、使用前に取扱い説明書を必ず読むように指導してください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



警告

機械の改造禁止

純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けないでください。
機械を改造しないでください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



注意

点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。
定期の点検・整備をかならず受けてください。

〈守らないと〉

事故・ケガ・機械の破損を招く恐れがあります。



安全に作業するために



警告

ロータリー作業ではダッシュに注意
土が硬かったり石の多い場所ではロータリーをゆっくりと
地面に降ろして下さい。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に
飛び出す（ダッシュ）ことがあります。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。



警告

ハウス内での作業は換気を充分にする。
排気ガスが充满しないように充分換気を行って下さい。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。



警告

子供を近付けない
子供には十分に注意しロータリーに乗せたり
近付けないようにして下さい。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。



警告

作業機を装着するときは、
作業機の取扱い説明書を読む
作業機を装着するときは、事前にならず作業機の
説明書を良く読んで理解して下さい。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こします。



警告

作業機の着脱は平坦な場所で行う。
作業機の着脱は平坦で安定した場所で行って下さい。
夜間は適切な照明をしてください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こします。



警告

溝、あぜ越えは、アユミ板を使用する
ほ場に入るとき、溝、あぜを渡るとき、軟弱な所を通る時は、
幅、長さ、強度のあるアユミ板を使用して下さい。

〈守らないと〉

転倒やスリップによる事故を起こす恐れがあります。

安全に作業するために



警告

点検・整備は平坦な場所で行って下さい。
機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で
タイヤに輪止めをして行って下さい。

〈守らないと〉

機械が転倒するなど、思わぬ事故を招く恐れがあります。



警告

点検・整備中はエンジン停止。
点検・整備・修理・または掃除を行うときはエンジンの
回転を停止してください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

カバー類は必ず取り付ける。
点検整備などで取り外したカバー類は必ず元通りに
取付けてから作業してください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



警告

下にもぐったり、足を入れない
ロータリーの点検・整備をするときは、下にもぐったり
足を踏み込んだりしないで下さい。

〈守らないと〉

ロータリーが下がったとき傷害事故を追う恐れがあります。



危険

燃料補給、注油時は火気厳禁。
エンジンを停止し、くわえタバコ、裸火照明は
絶対にしないこと。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



警告

爪に巻き付いた草などを取り除くときは
管理機のエンジンの回転を停止する。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



安全に作業するために



危険

燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る。
燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料をきれいにふき取ってください。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



警告

排気ガスには十分に注意する。
締め切った室内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむをえず
屋内で始動する場合は十分に換気してください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたる恐れがあります。



注意

マフラーの高温に注意
運転中及びエンジン停止直後のマフラーは高温です
触れないでください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れがあります。



警告

マフラー、エンジン周りのゴミは取り除く
マフラー、エンジン周辺にゴミ、ワラクス、燃料が
付着していないか毎日作業前に点検してください。

〈守らないと〉

火災事故を引き起こす恐れがあります。



警告

坂道、アユミ板の上では変速禁止
適正な速度段を選択し、坂道やアユミ板の上では
主クラッチを切ったり変速をしないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こす恐れがあります。



警告

運搬は天井のない車を使用する。
運搬は荷台に天井のない車を使用し、後退するときは
後方に注意し低速で行ってください。

〈守らないと〉

ハンドルと天井の間などにはさまれて事故を引き起こす
恐れがあります。



安全に作業するために



警告

積み降ろしは、上りは前進、下りは後進で
丈夫な、すべり止めをしたアユミ板を確実に固定し、上りは
前進、下りは後進でロータリーの爪等を引っ掛けないように
注意し周囲に人がいないことを確かめ低速で行って下さい。

〈守らないと〉

転落などの事故を引き起こす恐れがあります。



注意

シートは機械が十分に冷えてから掛ける
機械にシートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが
充分冷えてから掛けて下さい。

〈守らないと〉

火災事故を引き起こす恐れがあります。

☆本製品の使用目的

本製品は農業用の管理作業機です。ほ場での管理作業にご使用下さい。
使用目的以外の作業や改造は絶対にしないでください。



安全に作業するために

警告ラベルとその取扱い

【ラベルのメンテナンス】

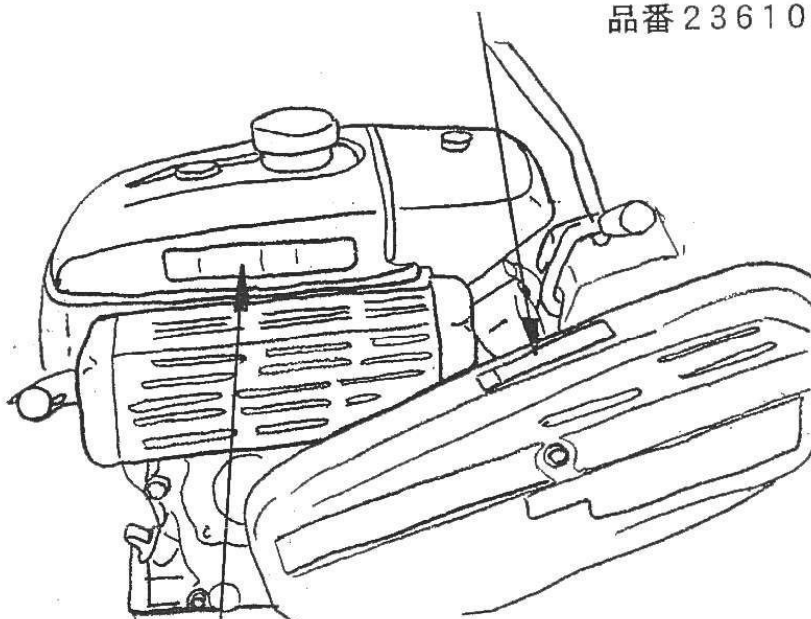
- (1) 警告ラベルは、いつもきれいにしておいて傷つけないようにしてください。
- (2) 警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、新しいラベルに取り替えてください。
- (3) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを完全にふき取り乾いた面にして元の位置に貼ってください。

※この頁に表示のラベルは全て縮小されています。



巻きこまれるおそれがあるので、このカバーをはずしたままエンジンを始動しないこと。
点検、整備後は、必ずカバーを装着すること。

品番 236100000452002



▲注意	▲警告	▲危険	無鉛ガソリン
マフラー高温注意	排ガスに注意	火気厳禁	
 さわるとやけどをするおそれがあります。	 室内や換気の悪い所での運転は人体に有害で危険です。	 ・給油時エンジン停止 ・火災の危険あり。 給油口に火を近づけないこと。	

品番 KW56256AA

⚠ 安全に作業するために

⚠ 注意

- 取扱説明書をよく読んで、正しい取扱いをし、安全な作業をすること。
- エンジンを始動する時は、主クラッチレバーを「切」にすること。
- 積み降ろし、ほ場の出入り、坂道などでは遅い車速で運転すること。
- 作業中は、周囲に人を近づけないこと。後進時は後方を確認すること。
- 点検、整備をする時は、必ずエンジンを停止すること。

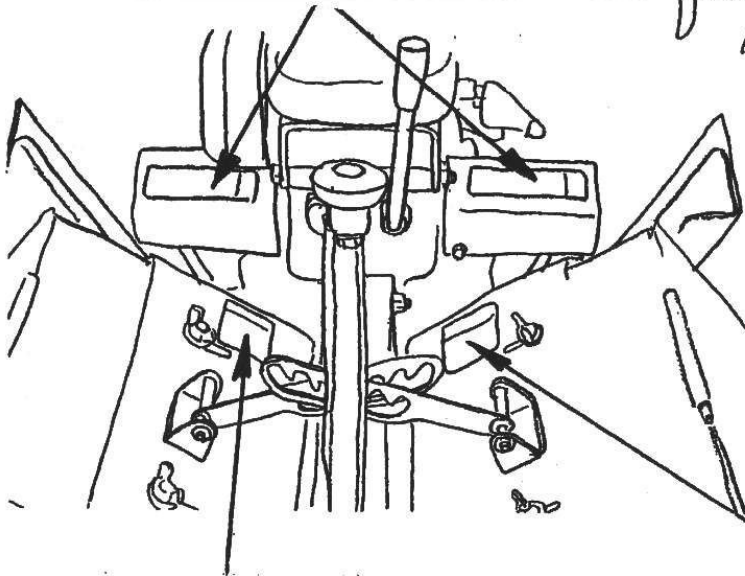
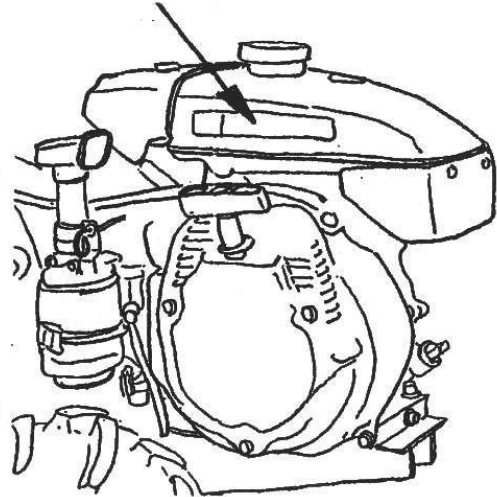
品番 236100000451000

品番 231600000709000

⚠ 警告



たたき板やクランク部に挟まれ、けがをするおそれがあるので、作業中は近づかないこと。
点検、整備後は、必ずカバーを付けること。



⚠ 警告



ロータリの回転部に接触すると、けがをするおそれがあるので、回転部に近づかないこと。

品番 236100000452000

⚠ 警告



作業中は石などの飛散により、人にけがをさせるおそれがあるので、機械の前方や周辺に注意すること。

品番 008171870552000

サービスと保証について

保証書について

お客様が保証修理を受けられる場合に必要になるものです。

よくお読みになって大切に保管してください。

■アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに、点検処置してもなお不具合があるときは、お買い上げの販売店又は直接当社にご連絡ください。

その際に連絡していただきたい内容

■管理機の型式名

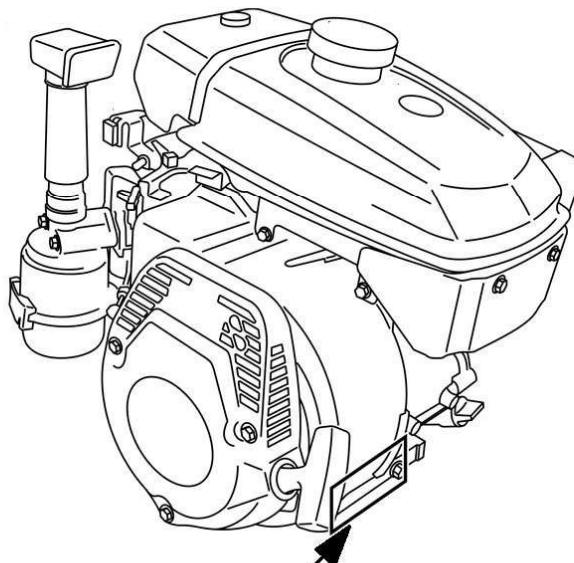
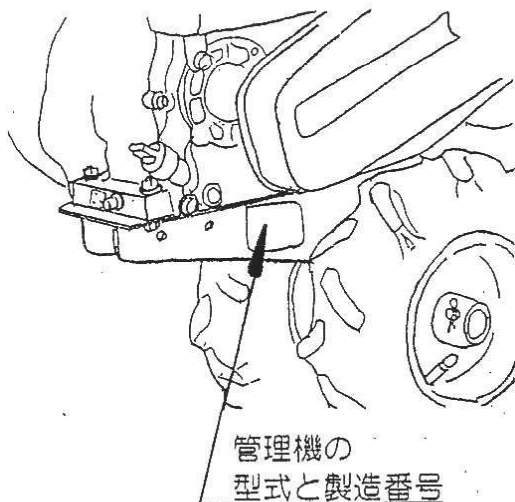
■管理機の製造番号

■故障内容（できるだけ詳しく）

●どんな作業をしていましたか

●どのくらい使いましたか

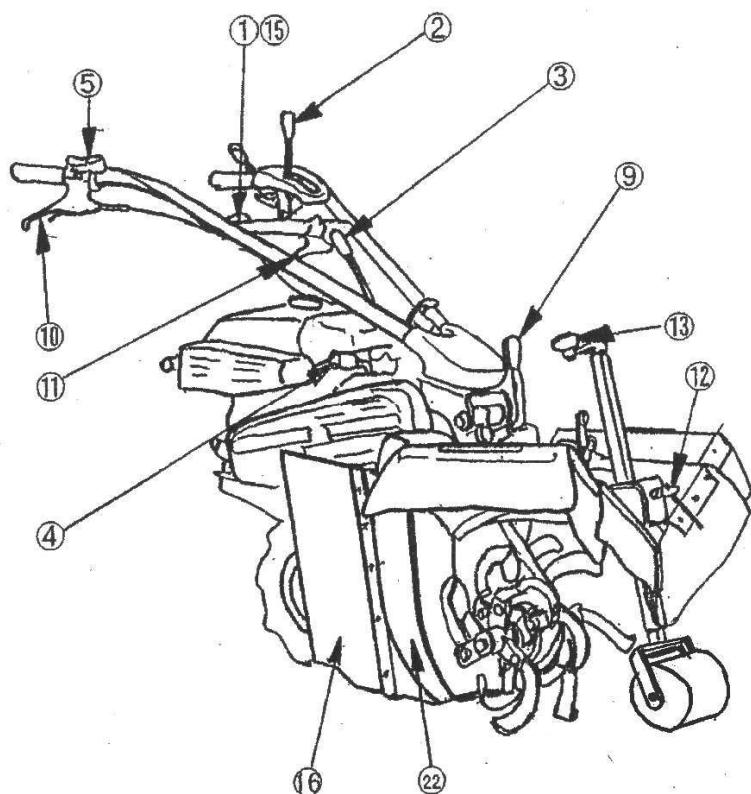
（アール、又は時間）



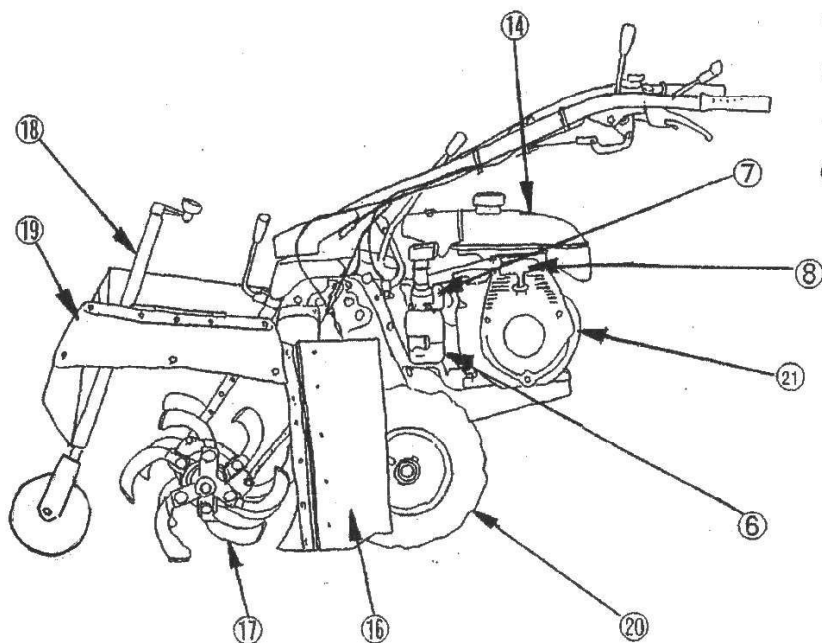
警告

機械の改造は危険ですので、改造しないで下さい。改造した場合や、取説に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意下さい。

各部の名称と取扱い



- ①エンジン停止スイッチ
- ②主クラッチレバー
- ③主変速レバー
- ④副変速レバー
- ⑤アクセルレバー
- ⑥燃料コックレバー
- ⑦チョークレバー
- ⑧ リコイルスタータ
- ⑨作業機クラッチレバー
- ⑩ロータリクラッチレバー
- ⑪ハンドル上下レバー
- ⑫尾輪締付けボルト
- ⑬尾輪上下ハンドル
- ⑭燃料ゲージ
- ⑮緊急停止スイッチ
- ⑯畝整畦器
- ⑰爪 軸
- ⑱尾 輪
- ⑲ロータリカバー
- ⑳車 輪
- ㉑エンジン
- ㉒サイドプレート



各部の名称と取扱い

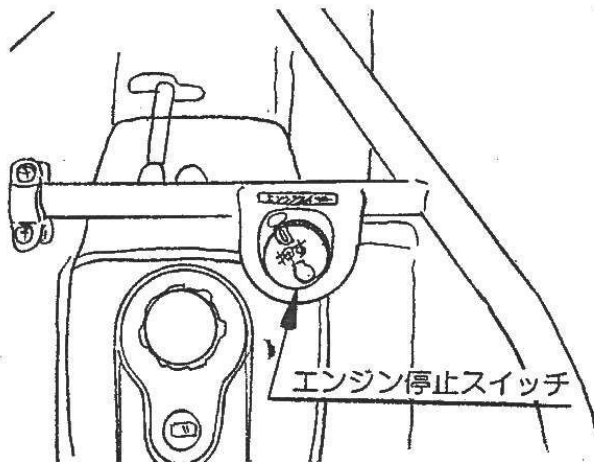
1. エンジン停止スイッチ

●エンジンの停止と運転

停止……ボタンを押す

運転……ボタンを押し込み右に回す。

詳細については13 ページ, 15. 緊急停止スイッチの項参照



2. 主クラッチレバー

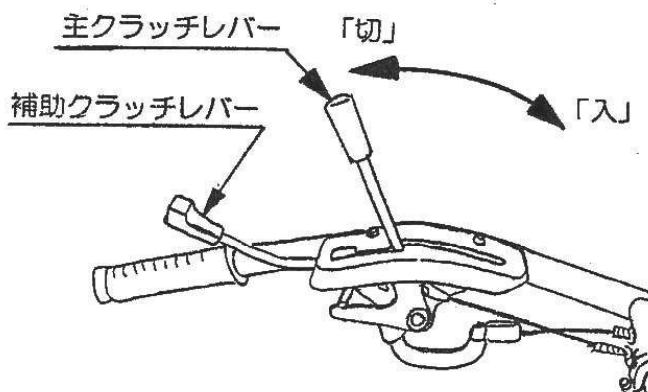
●エンジン動力の断続

「入」……主クラッチレバーを前に押し倒す。

又は、補助クラッチレバーを下に押し下げる。

「切」……主クラッチレバーを手前に引く

又は、補助クラッチレバーを上を押し上げる。

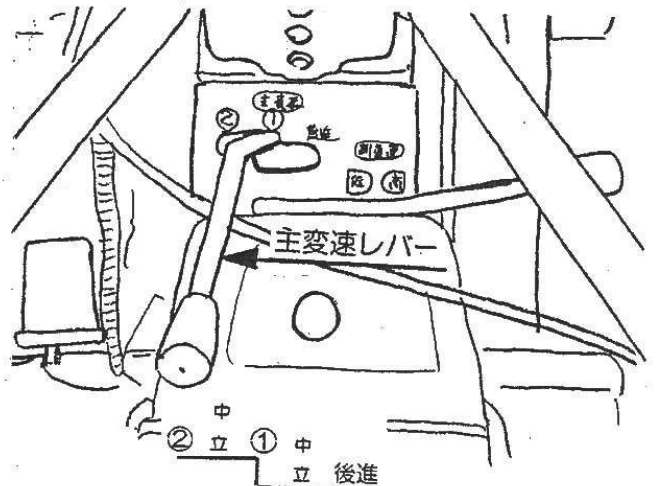


3. 主変速レバー

●走行速度の変速

前進2段。後進1段に変速できます。

※変速操作は主クラッチレバーを「切」の位置にしてからおこなうこと。

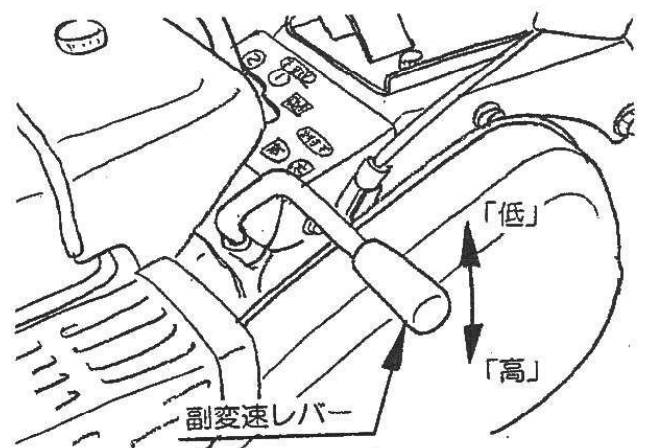


4. 副変速レバー

●走行速度を変速します。

高、低2段に変速できます。

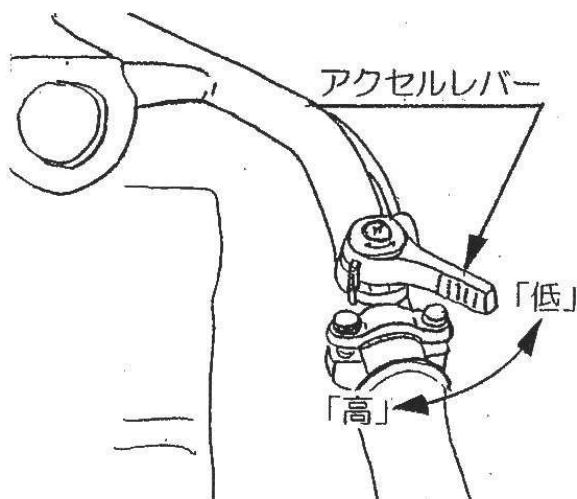
※変速操作は主クラッチレバーを「切」の位置にしてからおこなうこと。



各部の名称と取扱い

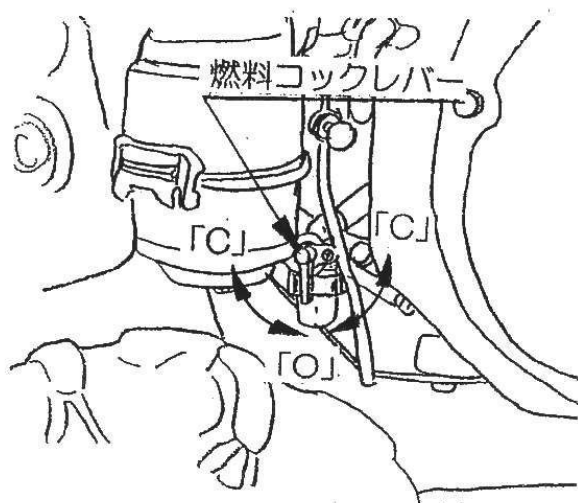
5. アクセルレバー

- エンジン回転の調節をします。
「高」にすると回転が速くなる
「低」にすると回転が遅くなる



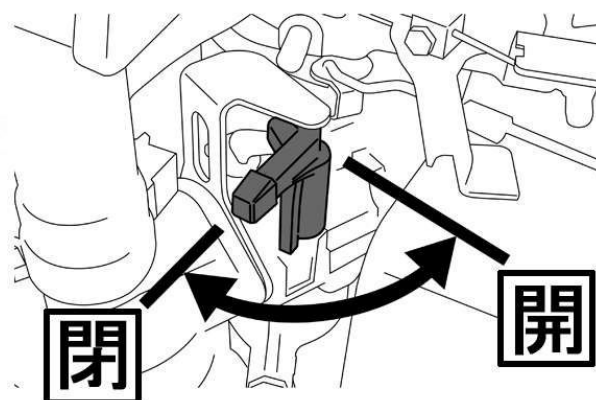
6. 燃料コックレバー

- 燃料タンクからの燃料の「供給」「停止」をします。
「C」(閉) … 燃料停止
「O」(開) … 燃料供給



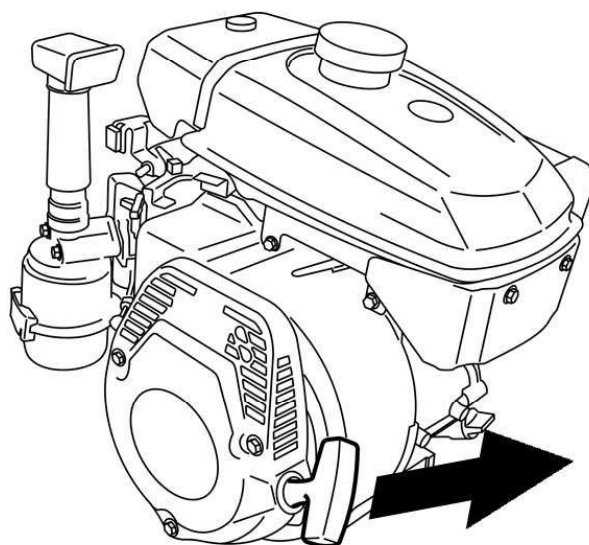
7. チョークレバー

- エンジン始動時に使用します。
エンジン始動時は「閉」の位置に切替え
エンジン回転が安定したのを確認後
「開」位置に戻します。



8. リコイルスタータ

- エンジンの始動をします。
リコイルスタータを引っ張ると
始動します。



リコイルスタータ

各部の名称と取扱い

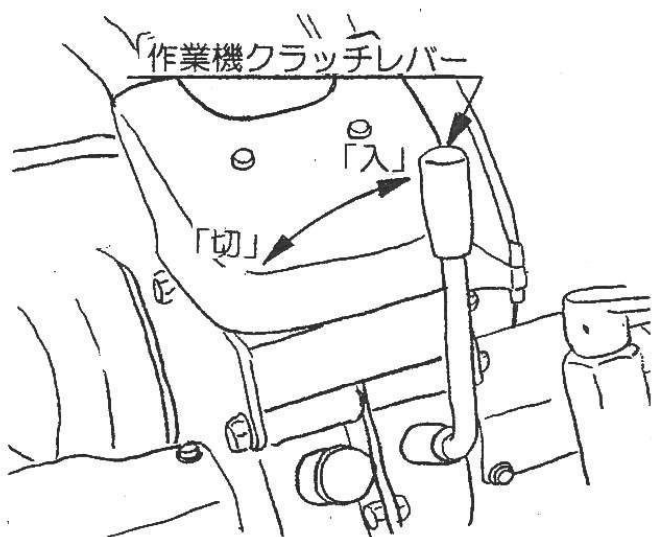
9. 作業機クラッチレバー

●整形器への動力の断続をします。

「入」……動力が伝わり整形器が作動します。

「切」……動力が切れます。

※操作は主クラッチレバーを「切」の位置にしてから行なうこと。



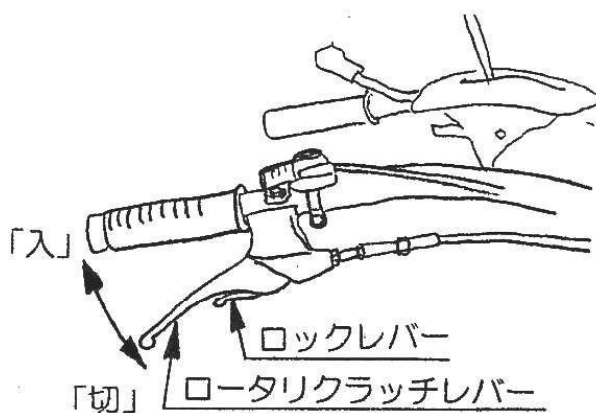
10. ロータリクラッチレバー

●耕耘軸への動力の断続をします。

「入」……ロータリクラッチレバーを握る。

「切」……レバーを握りロックレバーを外しレバーを放す。

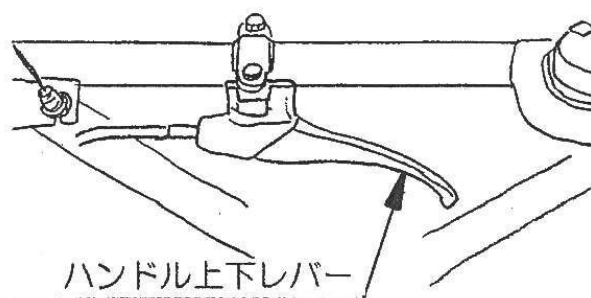
※操作は主クラッチレバーを「切」の位置にしてから行うこと。



11. ハンドル上下レバー

●ハンドルの高さを調節をします。

レバーを握りハンドルを上下して調節する。



12. 尾輪締付ボルト

●尾輪を固定します。

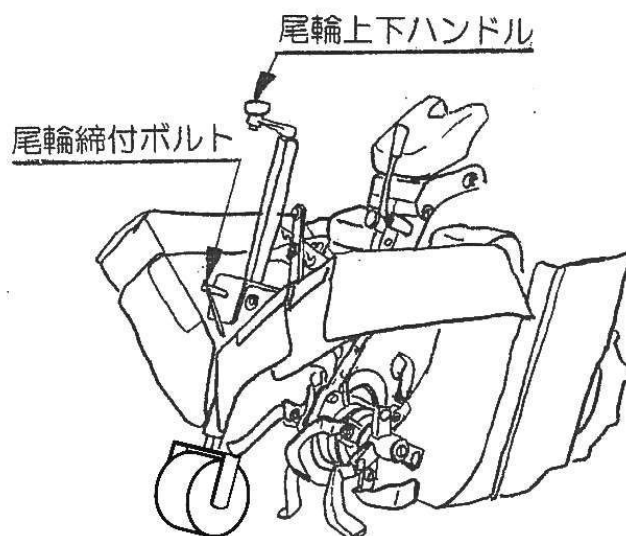
ボルトをゆるめ尾輪を上下に動かし耕深を調節します。

13. 尾輪上下ハンドル

●尾輪の上下微調節をします。

・右に回す……尾輪が上がります。

・左に回す……尾輪が下がります。

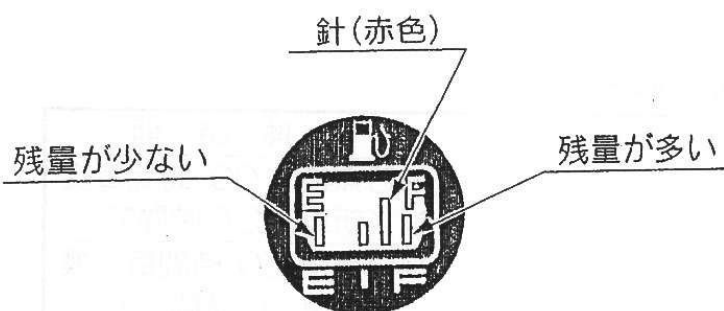
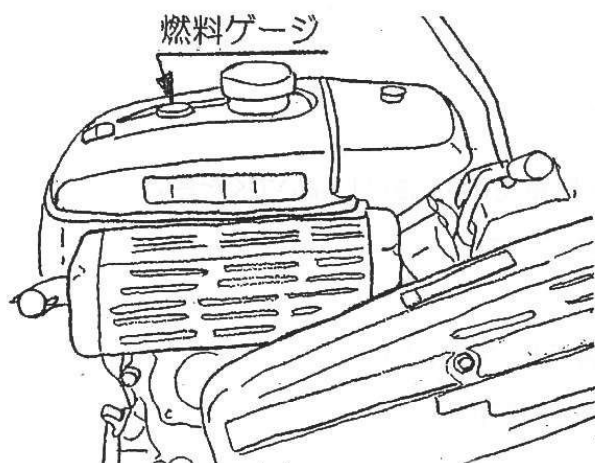


各部の名称と取扱い

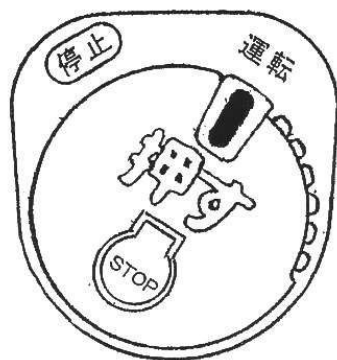
14. 燃料ゲージ

- 燃料タンク内の燃料の目安の残量を確認します。

- (1)「E」側に針があると燃料が減っています。
- (2)「F」側に針があると燃料が有ります。



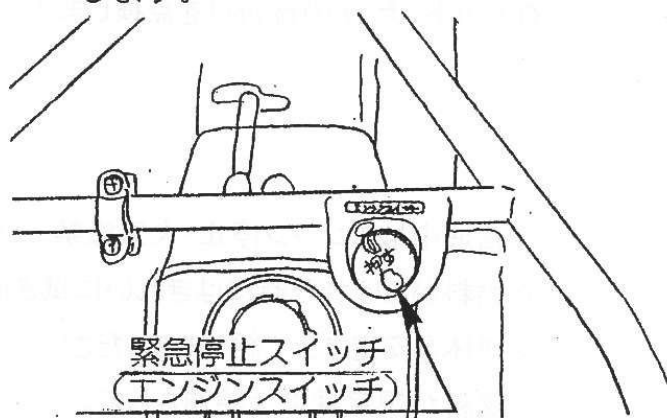
燃料ゲージ



運転

15. 緊急停止スイッチ

- ハンドル中央部に設けられた赤いボタンが緊急停止のスイッチです。緊急の場合にすばやくたたくように押してください。スイッチが「停止」の状態になりエンジンの回転が停止します。



- このスイッチはエンジン停止スイッチも兼ねています。通常のエンジンの「運転」「停止」に使用します。

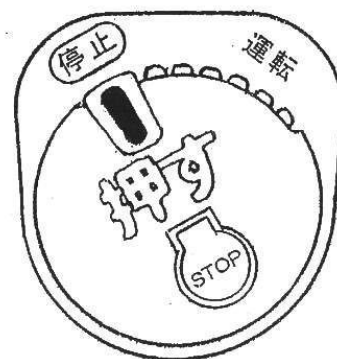
・操作

1. 停止

ボタンを押すと、ボタンが左に回って（反時計回り）「停止」の位置になり、エンジンの回転が止まります。

2. 運転

ボタンを押込みロックを外し、そのまま止まる所まで右に回し（時計回り）、引き上げるようにして手を放すと「運転」の位置でロックされます。



停止

上手な運転のしかた

1. 運転前の準備

(1) ボルトナットの点検

エンジン・ホイールハブ・ハンドルなどの各部ボルト・ナットの締付けを点検します。

(2) 給油・注油

給油・脂表にしたがって、必ずご使用前に点検します。

☆給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。

☆燃料がこぼれた時にはきれいに拭き取ってください。

☆機体を安定させて給油してください。

☆燃料が規定量以上給油されていないか確認してください。

☆廃油は空地などに捨てないで適正な処理をして下さい。

《給油・脂表》

給油箇所	油種	所要量	交換時期
ミッションケース	ギヤオイル SAE90	3.5ℓ	毎日点検 100 時間毎交換 (新車時 20 時間で)
クランクケース	エンジンオイル 10W-30	0.6ℓ	毎日点検 50 時間毎交換 (新車時 20 時間で)
エアクリーナ	エンジンオイル	OIL LEVEL	毎日点検 50 時間毎交換
ホイールチューブと 車輪との間	グリス	適量	毎日使用前
主クラッチレバー軸	エンジンオイル 又はギヤオイル	適量	毎日使用前
テンションアーム	エンジンオイル 又はギヤオイル	適量	毎日使用前
ワイヤー。レバー類	エンジンオイル 又はギヤオイル	適量	毎日使用前
整形器の各摺動部	エンジンオイル 又はギヤオイル	適量	毎日使用前

上手な運転のしかた

- ① 燃料タンクに燃料を入れてください。
自動車用無鉛ガソリン

規定量 …… 3.5 l



- ② エンジンオイルを入れてください。

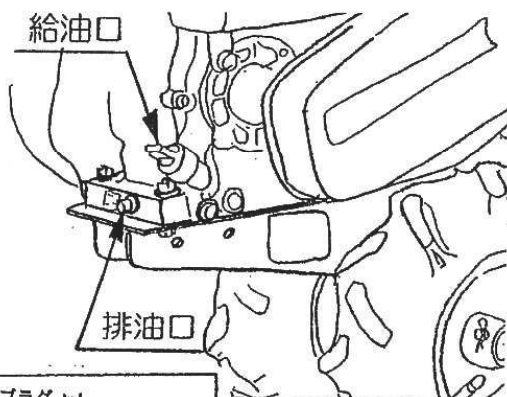
春—秋 …… 30#

又は10W-30

冬 …… 20#

又は10W-30

規定量 …… 0.6 l



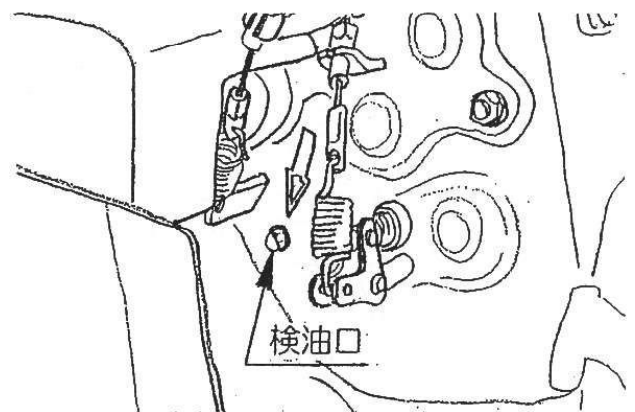
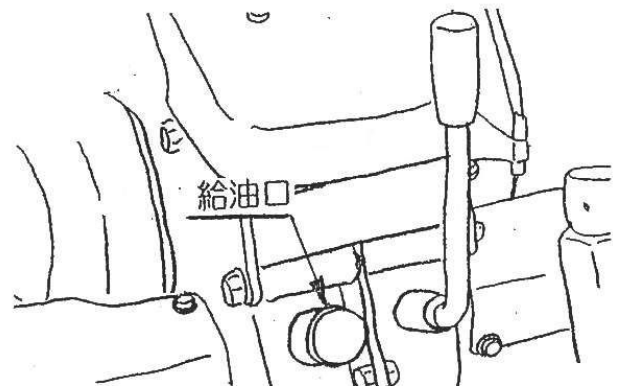
- エンジンを水平にして正規油面まで補給
- 油量は給油プラグをねじ込まないでチェックする。

- ③ ミッションケースにオイルを入れてください。

機体を水平にして検油口よりオイルが流れ出るまで入れてください。

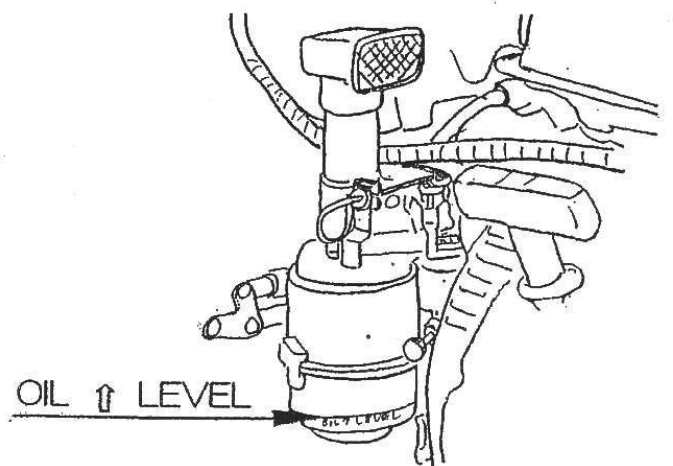
規定量 …… 3.0 l

ギヤオイル…SAE90#



- ④ エアークリーナにオイルを入れてください。

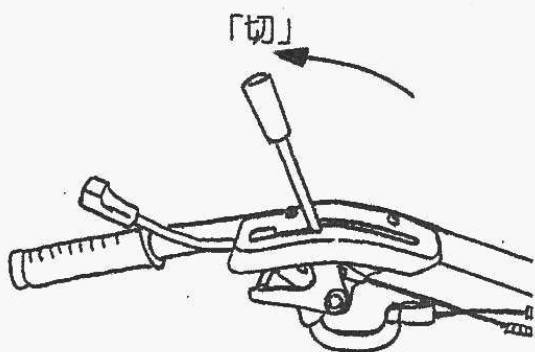
エンジンオイルをOIL↑LEVEL線まで入れてください。



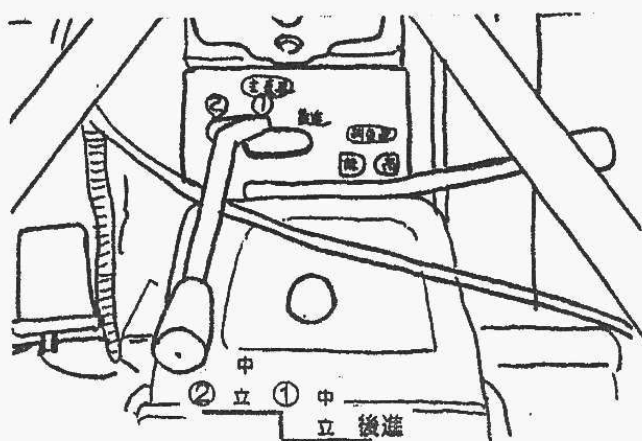
上手な運転のしかた

2. エンジンの始動

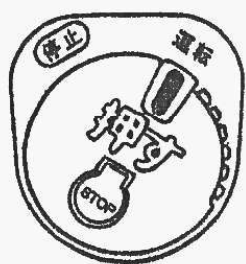
(1) 主クラッチレバーが「切」状態になっているか確認してください。



(2) 主変速レバーを「中立」にしてください。

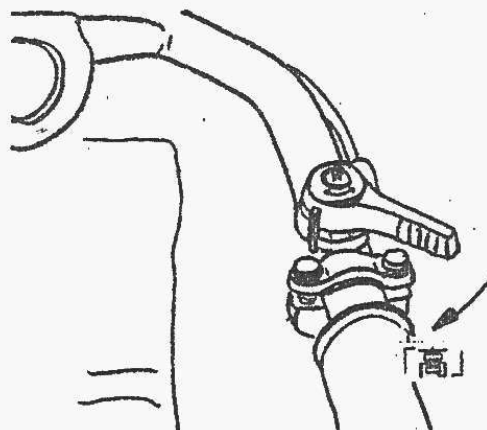


(3) エンジン停止スイッチを押込んで右方向に回して停止状態を解除し（ロックを外し）運転状態にしてください。

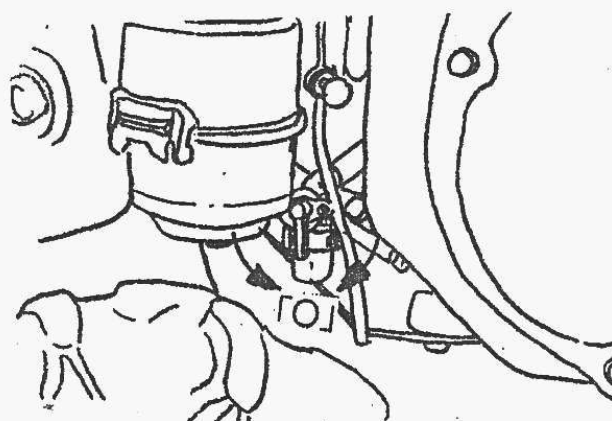


運転

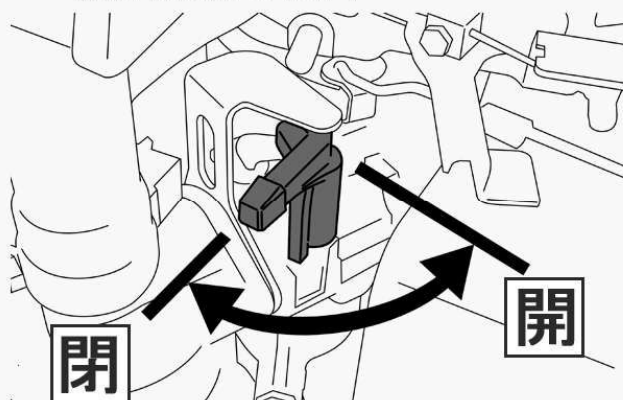
(4) アクセルレバーを「高」の位置にしてください。



(5) 燃料コックをO（開）にしてください。

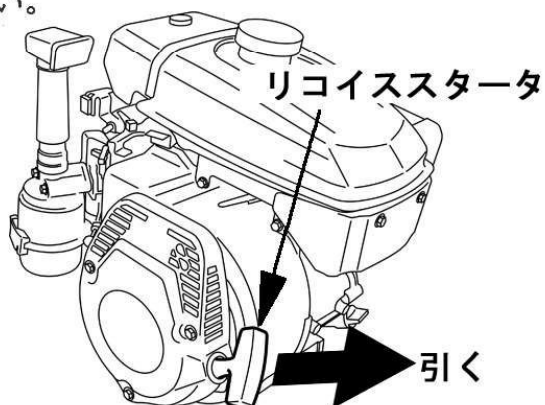


(6) チョークレバーを引いて閉じてください。エンジンの暖まり具合により開度を調節します。

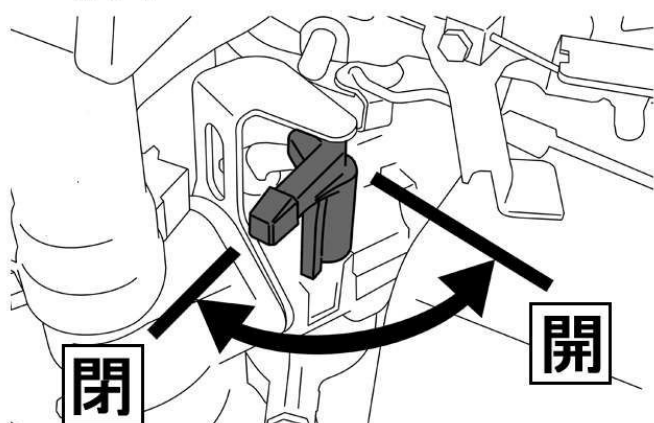


上手な運転のしかた

- (7) リコイルスタータを勢いよく引いてエンジンを始動します。スタータを戻すときは静かに元に戻してください。



- (8) 始動したら回転の調子を見ながらチョークレバーを徐々に全開にしてください。



3. 停止のしかた

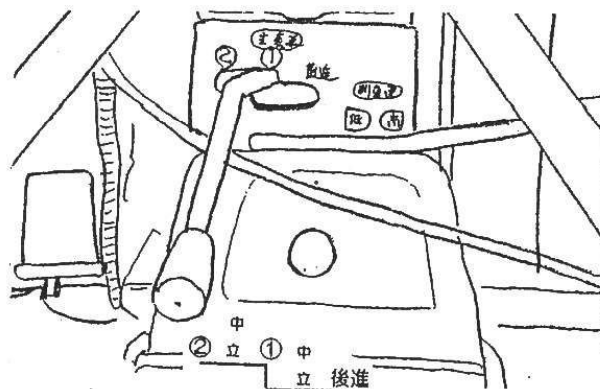
- (1) 主クラッチレバーを「切」にします。
- (2) アクセルレバーを「低」にします。
- (3) エンジン停止スイッチを押してロックするとエンジンが停止します。
- (4) 燃料コックをC (閉) にします。

重要

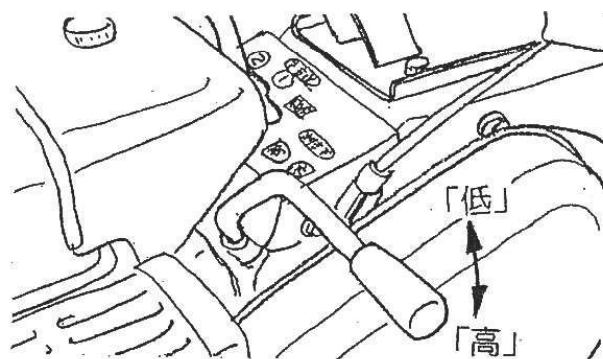
* コックを開いた状態で保管したり前に倒したり、車両で運搬するとエンジンの始動が困難となることがあります。

4. 発進のしかた

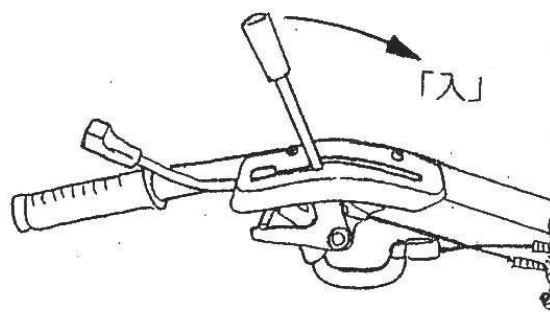
- (1) 主変速レバーを希望の変速位置にします。



- (2) 副変速レバーを「高」「低」希望の位置にします。



- (3) 主クラッチレバーを「入」にすると発進します。



注意

主クラッチレバーはゆっくり操作してください。(特に後進はゆっくり操作)

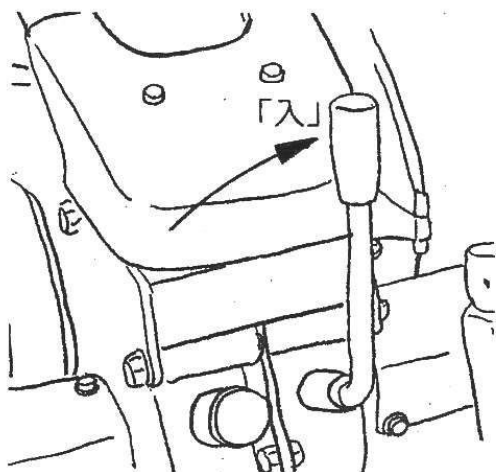
上手な運転のしかた

5、土揚げ作業

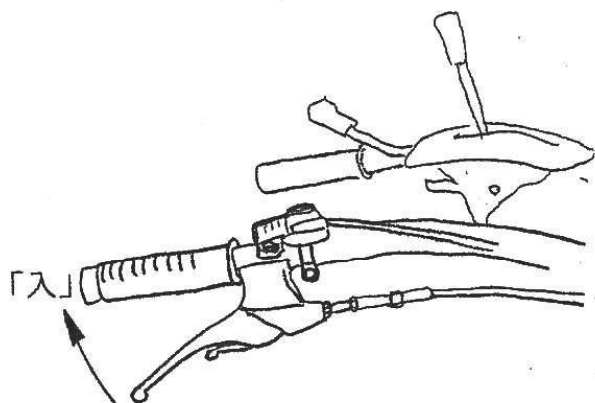
この機械での土揚げ作業では、前作業としての耕耘作業が重要です。十分な深さ(200mm以上)まで耕してください。畦の高さが十分な高さにならなかったり不揃いになってしまいます。

以下に一般的な作業手順について述べます。

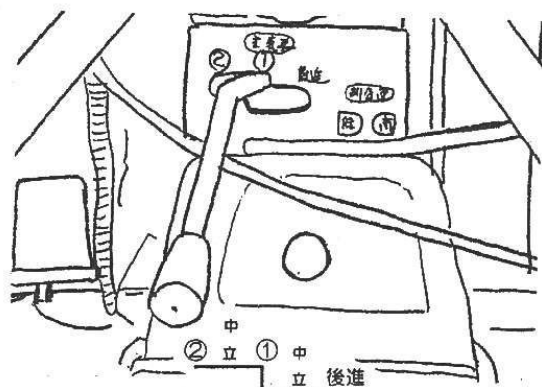
(1)、作業機クラッチレバーを「入」の位置にします。



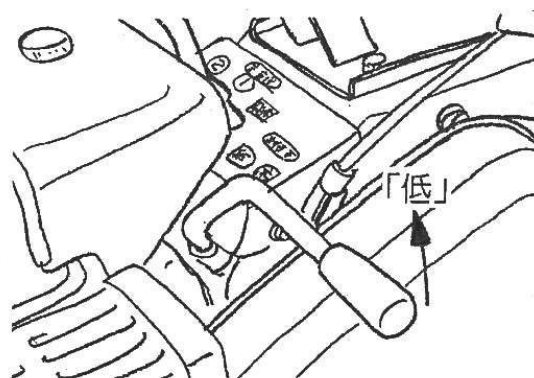
(2)、ロータリクラッチレバーを握って「入」にします。



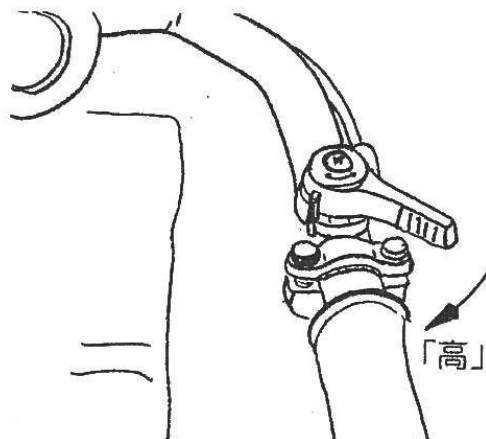
(3)、主変速レバーを1速にします。



(4)、副変速レバーを「低速」(土の軽い圃場では2速)にします。

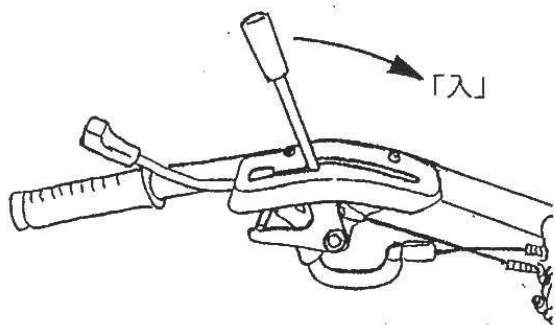


(5)、アクセルレバーを「高速」側にします。

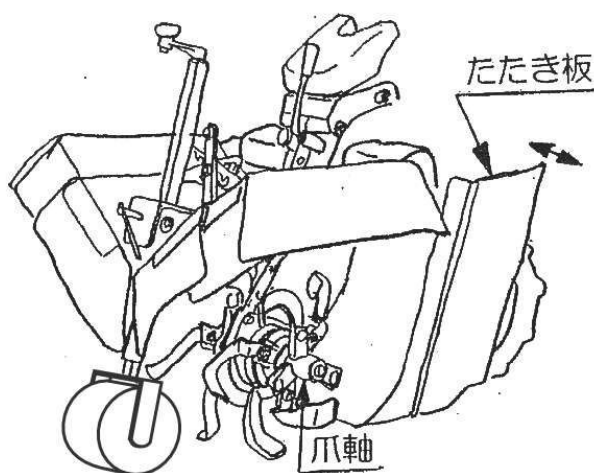


上手な運転のしかた

(6), 主クラッチレバーを「入」の位置にします。



(7), 機体が前進をはじめ爪軸が回り「たたき板」が左右に動き出します。



(8), 土質により土の揚がり具合が違いますので土の揚がり具合を見ながら「アクセルレバー」で回転をコントロールしてください。

6、作業中の注意点

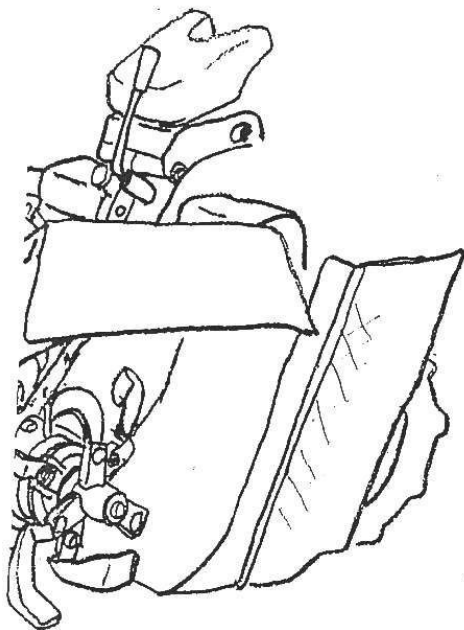
- (1) 前作業の圃場の耕耘は十分な深さ(200mm以上)まで耕してください。耕耘深さが浅いと希望する畝の仕上りが得られないことがあります。
- (2) 畝の仕上り具合は土の湿り具合により大きく左右されますので十分に適度の湿り気与えてください。土の湿り具合の目安は土を一握り持って軽く握り締めてを開いた時崩れない位が適当です。
- (3) 畝を作り始める時はまず主変速レバーを中立のままで爪軸を回して爪軸を土に充分食い込ませてから前進させると畝の不完全部が短くなり畝の手直しが楽です。
- (4) 十分な高さの畝の成形には土の流れが重要です。カバーを調節して土がたたき板の直前に多く流れ落ちるようにして下さい。

上手な運転のしかた

(5) たたき板は土が付着しない様に特殊な形状にしたり樹脂板を採用したりしていますがそれでも尚土が付着してきますので1工程終わりの畝に入る前にたたき板に付いた土を木の板など比較的柔らかい物で掻き落してください。

硬いものでは樹脂板に傷を付け逆に土の付着を増してしまいますので使わないでください。

又土の付着を押える方法としてたたき板に菜種油のような植物油を塗ると土の付着がかなり押さえられます。



(6) 作業中はあまり足元にばかり気にせず前方の一点を目指して作業すると比較的真っ直ぐに畝立ができます。

3、爪軸と耕うん爪の取付

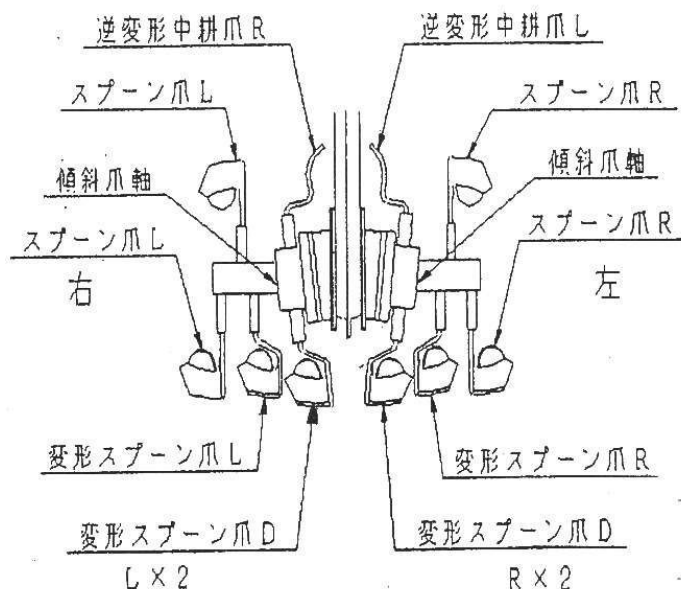


注意

耕うん爪の取り付けはエンジンを停止させてから行ってください。

この機械は爪軸に残耕のないフルカット機構を採用しています。耕耘爪の取付けを間違えると充分な性能が発揮できず故障の原因になりますので御注意ください。

7、爪の配列



上手な運転のしかた

8、爪の取付

(1) フルカット部

傾斜爪軸の右側には、合せマークを基準にして回転方向順に「逆変形中耕爪 L」、「変形スプーン爪 D R」、「変形スプーン爪 D R」を取付けます。

左側は合せマークを基準にして、逆回転方向順に「逆変形中耕爪 R」、「変形スプーン爪 D L」、「変形スプーン爪 D L」を取付けます。

(2) 爪軸

左右とも1番内側のホルダーに「変形スプーン爪」を取付け、他の2個のホルダーには「スプーン爪」を取付けます。

(3) 逆変形中耕爪を除き、その他の爪は全て外向き（爪先が外側を向く）になるよう取付けてください。

(4) 傾斜爪軸と爪軸は合せマークを合わせて組付けてください。

●必要部品

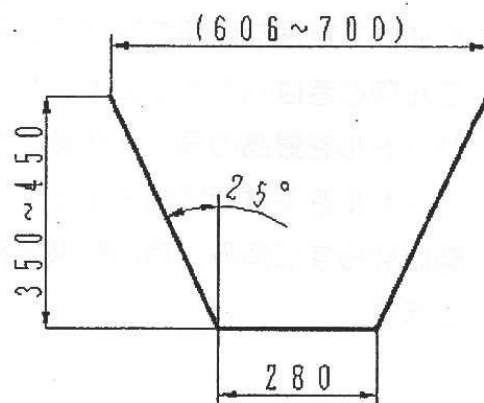
部	品	個数
傾斜爪軸	逆変形中耕爪	R 1
		L 1
	変形スプーン爪 D	R 2
		L 2
	爪取付ボルト	6
	バネ座金M10	6
	六角ナットM10×1.25	6
爪軸	スプーン爪	R 2
		L 2
	変形スプーン爪	R 1
		L 1
	爪取付ボルト	6
	バネ座金M10	6
	六角ナットM10×1.25	6

・この機構の為ワラ屑や草等の鋤き込みの多い圃場でもワラ屑や草等が排除され整形器に草などが引っ掛からずに作業が楽にでき畝の仕上りも良好です。

☆この機械で作れる溝形状は下図のようになります。(参考)

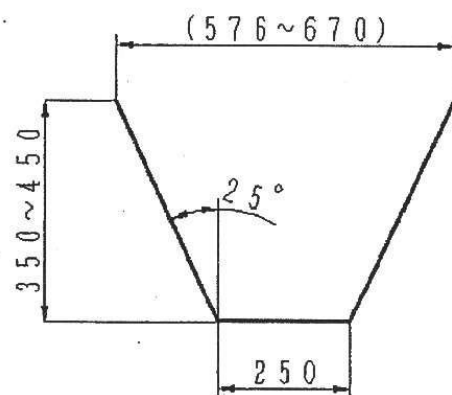
●スタンダード型〔280型〕

標準の溝底幅は、280mmです。溝底幅はたたき板を付替えることにより310mmにすることが出来ます。溝の深さは350~450mmです。



●コンパクト型〔250型〕

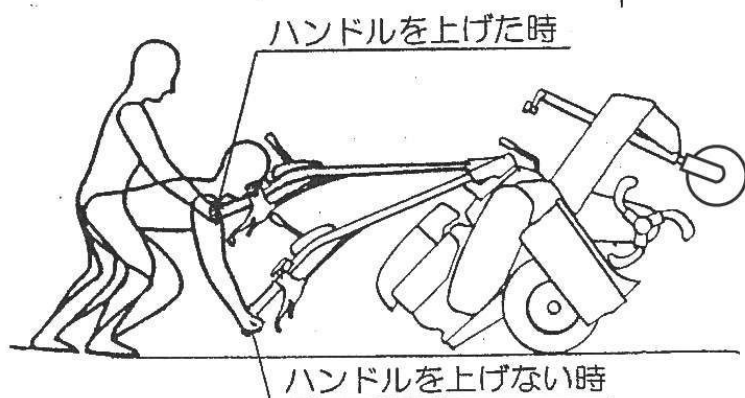
溝底幅250mmはスタンダード型のサイドプレートL・Rとタイヤをゴムラグ車輪又は、250車輪キットに交換することにより対応できます。



上手な運転のしかた

9. 方向転換時のハンドル調節

この機械はハンドルがエンジン側にある構造上、作業中に畝溝から出るときや方向転換する時などに、ロータリ側を高く持上げなければなりません。この時ハンドルを充分下に下げるため身体を深く折り曲げて無理な姿勢になってしまいます。こんなときはハンドル上下レバーを握りハンドルを最高の高さにすることにより、ハンドルを下げる距離も小さく無理な姿勢にならずに済み、方向転換も容易にできます。



使用後の清掃

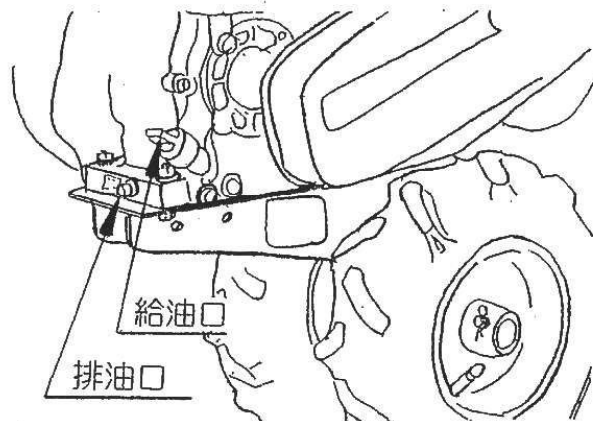
使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部は錆びないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まると、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検・清掃を行ってください。

こんなときどうする



注意

1. 給排油、点検、調節、清掃中はエンジンを停止して行ってください。
2. 機体を安定させて行ってください。



1. エンジンオイルの交換

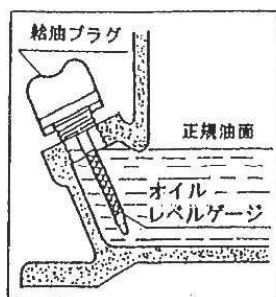
- 1) 排油のしかた
給油プラグを外しその後排油プラグを取外し排出してください。
- 2) 給油のしかた
エンジンを水平になるようにして給油口の口元まで入れてください。
1回目は20時間でそれ以降は100時間使用毎に交換してください。

エンジンオイル

春～秋 30#又は10W-30

冬 20#又は10W-30

規定量 0.6ℓ



- エンジンを水平にして正規油面まで補給
- 油量は給油プラグをねじ込まないでチェックする。

2. エアクリーナエレメントの清掃とオイルの交換

エレメントを取外し白灯油で洗い白灯油をよく振り切って取付けてください。

エンジンオイル

規定量 OIL LEVEL 線まで
50時間使用毎に交換

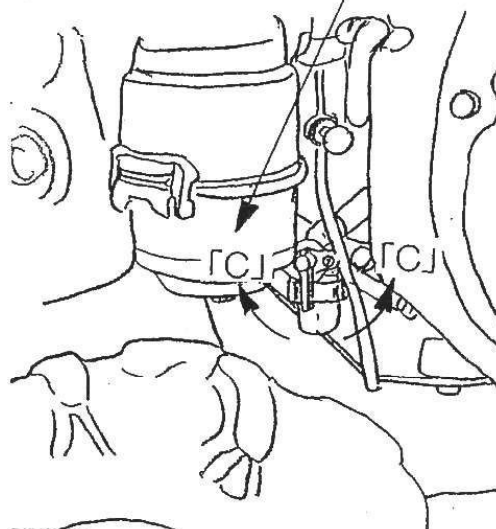
3. フィルターポットとエレメントの清掃とオイルの交換

燃料コックをC（閉）にしフィルターポットとエレメントを取外して清掃してください。

50時間使用毎に清掃

フィルターの汚れがひどいときは交換する。

エアクリーナエレメント



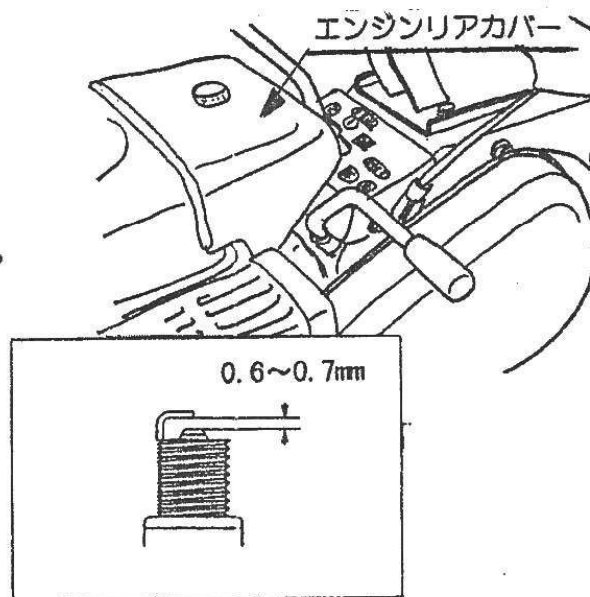
こんなときどうする

4. 点火プラグの調節と清掃

- 1) エンジンリアカバーを取外します。
- 2) ボックススパナで点火プラグを外して電極を清掃します。
- 3) 電極が 0.6~0.7mm になるよう調節します。
- 4) 6ヶ月毎に1回行ってください。

重要

* 締付け時はネジ山をつぶさないよう初め手でネジ込んでからボックススパナで締付けてください。

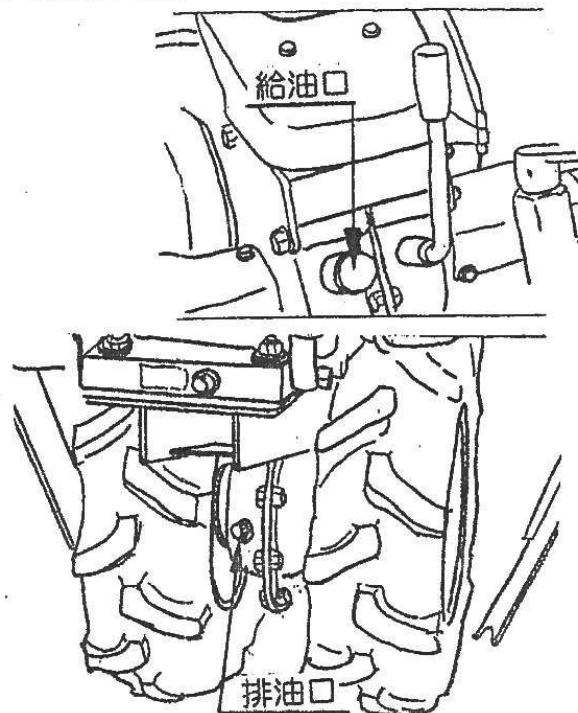


5. ミッションオイルの交換

- 1) 排油のしかた
ミッションケース車軸側の排油プラグを取外し排油してください。
- 2) 給油のしかた
機体を水平状態にして給油プラグを取外し検油口から油があふれでるまで給油してください。

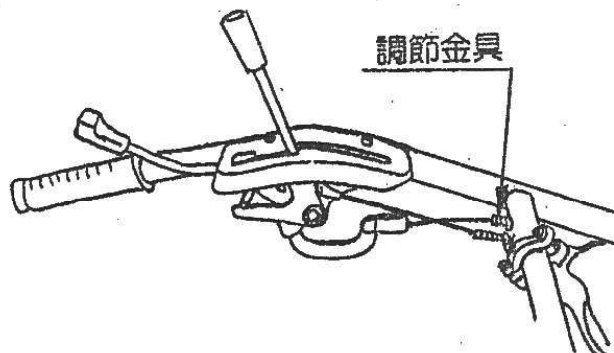
重要

* 抜取った廃油は、空地等に捨てないで、専門の処理業者に委託するなど適正な処理をしてください。



6. Vベルトの張りの調節

- 1) 主クラッチケーブルによる調節
主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押さえて10~15mm たわむ程度にケーブルの調節してください。
使用初期はベルトが伸びやすく10時間使用後ケーブルを再調節してください。



こんなときどうする

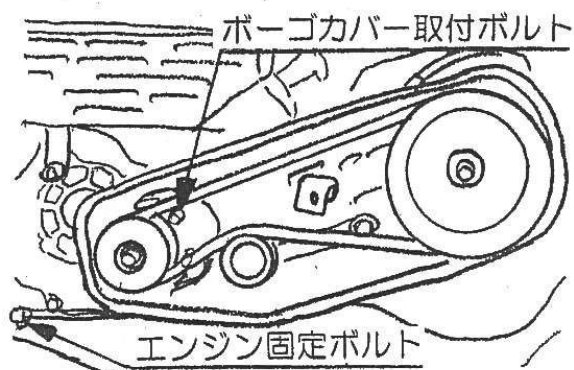
重要

クラッチケーブルを調節した場合エンジンを始動しクラッチの「入」、「切」が確実に作動するか確認してください。

2) エンジンの前後による調節

主クラッチケーブルで主クラッチの調査ができないときは、エンジンを前後に移動し調節します。エンジン固定ボルト4本とボウゴカバー取付けボルトを暖めて調節してください。

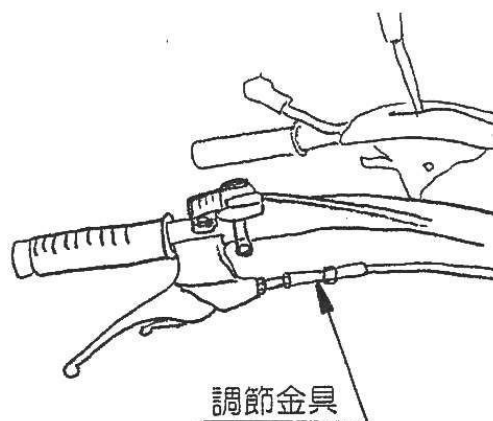
調節後ボルトは確実に締付けてください。



- 3) 新しいベルトに交換する場合はベルトの中央部を指ではさんで隙間を約 30 mm ぐらいにしてエンジンを固定してください。

7. ロータリクラッチの調節

ロータリクラッチレバーによりロータリ爪軸の回転、停止が確実にできるか点検します。「入」「切」が確実にできないときはケーブルの調節金具を調節します。



8. 耕うん軸へのグリースの塗布

耕うん軸にグリースまたはオイルを塗布しておくと爪軸の着脱が楽にできます。

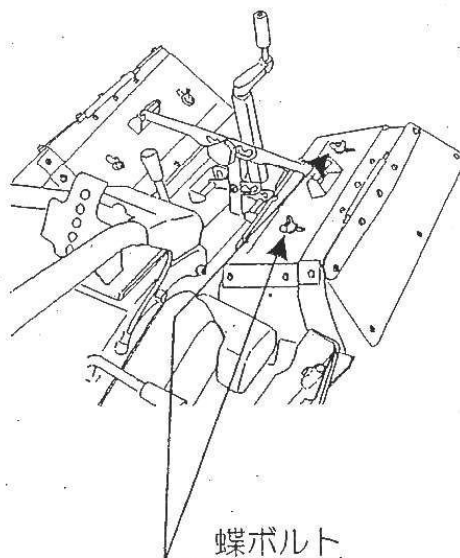
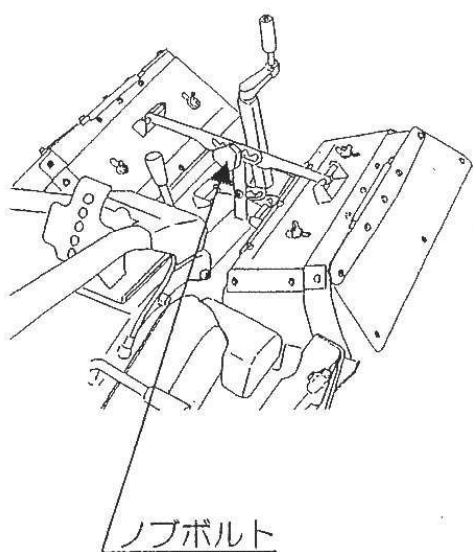
こんなときどうする

9. カバーの調節

この機械での畝盛作業は土の流れが大変重要ですカバーの調節で対応して下さい。

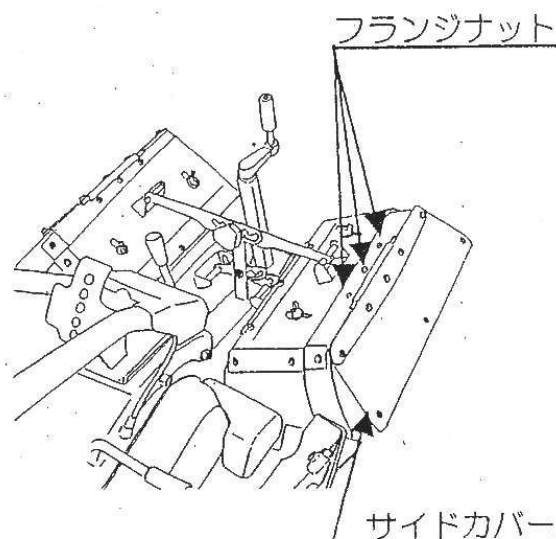
(1) カバーの開閉調節

支柱のノブボルトを緩めてカバーを上下調節します。調節が終わったらノブボルトを元通り締付けてください。



(3) サイドカバーの調節

サイドカバーは手で上下に開閉調節できます。サイドカバーの回動力の調節はスライドカバーのフランジナットを調節します。また材質を軟質の樹脂を採用していますので自由に形状を変えられます。



(2) カバーの幅調節

カバー上面の蝶ボルトを緩めて延長カバーを手で引っ張ってスライドさせ左右均等に調節します。調節が終わったら蝶ボルトを元通り締付けてください。

こんなときどうする

10. 長期格納のしかた

1. 主クラッチレバーは「切」の位置で保管します。
2. ガソリンは全部抜取ってください。
3. オイルを交換します。
4. 各部をきれいに清掃します。
5. エアクリーナエレメントを清掃しておきます。
6. エンジンのシリンダー内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引っ張って、圧縮位置で止めておきます。
7. カバーを掛けて、湿気やホコリのない場所に置いてください。カバーは、エンジンが冷えていることを確認した上で、掛けてください。

仕様・諸元

品番		231651000000000	
型 式		K802P	
機 体	全 長(mm)		1555
	全 幅(mm)		847
	全 高(mm)		931
	重 量(kg)		113
エ ン ジ ン	型 式 名		GB220LN
	総 排 気 量(cc)		215
	出力/回転数 [kw(PS)/rpm]		3.7(5.0)/1800
	最 大 出 力 kw(PS)		5.1(7.0)
	エアクリーナ方式		マン式オイルバス
	始 動 方 式		リコイルスタータ
	点 火 方 式		無接点式マグネット点火
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)		自動車用無鉛ガソリン 3.5
	潤 滑 油 容 量 (ℓ)		0.6
走 行 部	車 軸 径 ・ 形 状		φ28・丸軸
	車 軸 管		φ39.5×82
	車 輪		タイヤ3.50-6
伝 導 部	主 ク ラ ッ チ		ベルトテンション
	エンジン → 1 軸		Vベルト(SA-39 HP-IV)×2本
	1 軸 → 車 軸		ギヤ、チェン
	1 軸 → 爪 軸		ギヤ、チェン
	1 軸 → たたき板駆動軸		ギヤ
速 度	主 変 速	前 進	2 段
		後 進	1 段
	副 変 速		2 段
爪 軸 回 転 数 (rpm)			500
たたき板駆動軸回転数 (rpm)			355
整 形 器	型 式		280型
	溝 底 幅 mm		280(310)
			250型
			250(280)

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後 9 年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

品番 231651000751000



関東農機株式会社

本社工場／本社営業所 〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493
TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627

鏡石工場／福島営業所 〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石 57
TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133

盛岡工場／東北営業所 〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区洪民岩鼻 20-55
TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119

九州営業所 〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760

製品のご相談は下記の販売店へ